

## 第2次 関が丘まちづくり計画

### バトンをつないで「わたしがつくる住みたい関が丘」

全世代が魅力を感じる、住んで良かったと思えるまちづくりのため、特に生活目線に立った、地域コミュニティと地域活動の充実が不可欠です。

#### 重点項目

- ・関が丘住民がまちづくりに参加する意識を高める
- ・隣近所をはじめ人との支えあいの意識を高める
- ・小さなことから始める第二ステージ

## 1 関が丘の現況

### ①人口（令和2年3月31日）

■ 総人口 1,939人 男性 875人 女性 1064人 （昭和60年 3,657人）

#### ■ 人口の推移

昭和60年 3,657人 平成2年 3,491人 平成7年 3,113人 平成13年 2,144人 平成27年 2,176人  
令和2年 1,939人

#### ■ 年齢別人口比

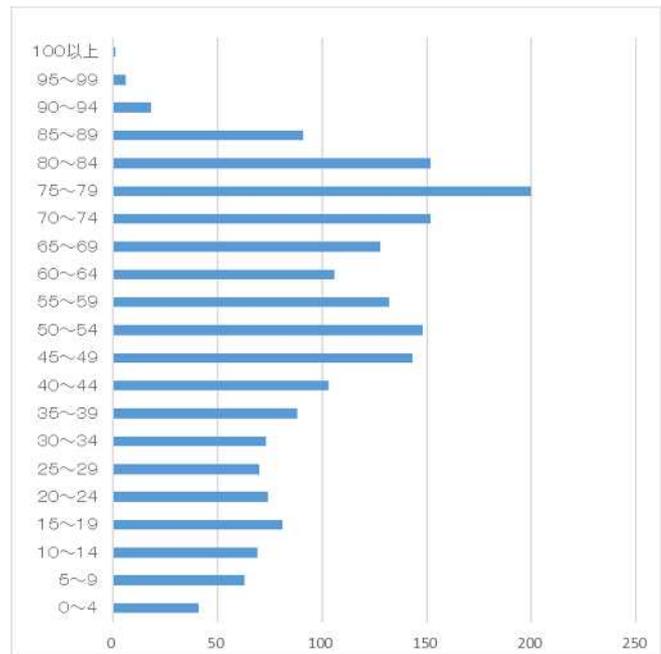
0～14歳 173人 15～29歳 225人  
30歳～44歳 264人 45～59歳 423人  
60～74歳 386人 75～89歳 443人  
90～99歳 24人 100歳以上 1人

高齢化率 38.6%

準高齢化率 50.9%

80歳以上 13.8%

14歳以下 8.9%



#### ■ 行政区

6行政区

1区 68世帯 135人 2区 204世帯 425人  
3区 152世帯 314人 4区 188世帯 314人  
5区 252世帯 532人 6区 107世帯 219人

### ②社会資源

#### ■ 公共施設（地区内徒歩20分以内）

市民センター、特定郵便局（金融可）、駐在所、消防屯所、一関南保育園（1号認定子ども10名、2、3号認定子ども60名）

#### ■ 公共交通機関

乗り合いバス（岩手県交通関が丘線）6往復 待合所4

#### ■ 商店等

スナック1、飲食店1、薬店1（調査可能）、理容1、美容2、クリーニング1

■ 小学校2（地区外）徒歩30分、中学校2（地区外）徒歩30分

■ JR駅（東北本線・東北新幹線）徒歩20分、車10分

■ 自家用車20分以内 大型スーパー、レストラン、医院（歯科、産婦人科、内科、外科）

## 経過と現状

関が丘地区は、昭和 45 年に旧一関市の南東の高台に岩手県住宅供給公社が造成分譲した新興住宅地で、国勢調査結果によれば昭和 60 年度（1985 年）人口 3,678 人とあります。令和 2 年度（2020 年）国勢調査によれば 1,942 人とあり 35 年間で約 53%に人口が縮小しました。

この間、就業構造の変化により同居していた後継者が一関を離れ、高齢者のみ世帯が増加し、空き家も増え、民間アパート、市、雇用促進アパートに入居していた集合住宅住民の移転もかなりの数にのぼったことが予想されます。また、地域からスーパーマーケット（丸江）が移転し、数店あった飲食店、理容店、美容院が廃業あるいは移転、子どもたちのたまり場である文房具、駄菓子店が廃業しました。最大の理由は人口減少が主因ではありますが、近隣地区（三関地区）への大型スーパーマーケットの立地や自家用車の普及拡大による消費行動の拡大による関が丘地区内店舗の利用減も要因であると考えられます。

また、関が丘地区の発展の中心を担ってきた住民主体の「関が丘親交会」が時代の変化とともに解散し、地区内の NPO（体育協会、防犯協会支部、交通安全協会分会等）も人口減少や後継者不足により組織構造の高齢化や固定化が進み、活動の先細りが懸念されます。消防団に関しては、消防分団はあれど関が丘地区団員は数名という状況です。

一関市は、過疎・少子高齢化・人口減少等に伴う地方自治機能の維持や、財政基盤の強化を図るため、近隣町村との合併を進め地域を広域化し、同時に新たなまちづくりの基盤として「市民と行政の協働」を主要施策として取り組み始め、その具体策の一つとして「地域協働体＝まちづくり協議会」を提案し、今日に至ります。関が丘地区では、平成 28 年に「関が丘まちづくり協議会」を設立、あわせて一関公民館関が丘分館だった関が丘コミュニティセンターから関が丘市民センター化を実現しました。平成 29 年には関が丘市民センターの指定管理者として施設の管理運営を受託することにより、事業予算も職員体制も乏しかったコミュニティセンターから、関が丘地区のまちづくり振興費用と市民センター運営費用の自立化を図り、職員体制を拡充し、まちづくり推進体制が整備されました。関が丘地区の住民が自ら地域づくりの機運を高め、実践に結び付けるよう関が丘まちづくり計画を策定し、「関が丘夏まつり・子供みこし」・「関が丘世代間交流大運動会」・「関が丘文化祭」といった民区の垣根を越えて3大事業を中心に、4 部会構成で地域づくりに取り組み、これまでは民区、各種団体がそれぞれの活動をしていたところを、地域全体で捉え、広域の地域づくりができるようになったと感じています。

しかし、計画を策定してから 5 年が経過し、少子高齢化・人口減少は、ますます進み、さらには新型コロナウイルス感染症という新たな課題が私たちの地域の暮らしを脅かしています。そんななか、昨今、若い家族の地域内移転も目に付くようになってきました。地域内は、交通事故件数も少なく、広場等もあり、子育てに安心かつ自家用車があれば通勤、買い物、病院等に不便なことがないとのこと。高齢化ばかりが目立つ社会ではありますが、関が丘地区には、20 代から 50 代人口が 810 人います。こと 30 代から 50 代の人口構成が 671 人、人口比 35%が地域に定住しています。この年代が長期にわたってまちづくりに関わると地域が変わることが期待できます。

まちづくりは一朝一夕にはできません。目標を共有し、できることから進めることが望まれ第二次関が丘まちづくり計画を策定します。

## 2 関が丘地区まちづくり協議会の5年間の振り返り（住民ワークショップ）

関が丘まちづくり計画を推進すべく5部会制で取り組んできましたが、令和3年度に体制の見直しを行い環境部会と安心安全部会を環境安全部会とし、4部会制としました。

～各部会の振り返り～

### ○事業推進部会

<成果>

- ・関が丘三大事業（関が丘夏まつり・子供みこし、運動会、文化祭）を少子高齢化の課題もありながら継続できた。特に、民区の垣根を超えて関が丘地区全体として子供みこしを復活させることができた。
- ・光のページェントを、令和2年から一関工業高校と一緒に取り組み始めた。
- ・40年前までは各民区盛んだったが、櫓を建てる資金不足、盆踊りの音が迷惑といった声などもあり、関が丘から消えた「盆踊り」の復活を検討中である。
- ・市民センターの指定管理を受託し、地域づくりの拠点と生涯学習の拠点として関が丘独自の取り組みができるようになった。

<課題>

- ・第一次まちづくり計画の実行を目指し部会制をとりながら事業の推進にあたってきたが、時間の経過とともに全体共有の機会が減ったため、それぞれのゴールに向かうようになった。
- ・まちづくり協議会としての戦略を創り出す機能がなく、事業推進部会がその機能を担うべきだったのかと振り返る。

### ○生涯学習部会

<成果>

- ・百歳体操を始めて集まる楽しみが生まれた。参加者の生きがいづくりにもなっている。
- ・ハイキングなど健康づくり事業を市民センター事業とタイアップで運営し、指定管理の効果を出している。生涯学習部会の生涯学習は、市民センター事業の生涯学習とイコールの関係性にしている。

<課題>

- ・コロナで集まらない。
- ・参加者に若い人がいないことが課題。若い人は60歳代、特に定年して問もない人の参加、コミュニティ活動への参加のきっかけとなればいい。以前、若い人が参加してくれたが、参加理由は、介護への備えだった。
- ・部会の役割を担ってくれる人、リーダー不足。参加するのは楽しいが、やる方は大変。

### ○環境安全部会

<成果>

- ・地域の環境が良くなった。（2年かけて防災ブックを作り全戸配布／バス停にベンチを設置／支障木の伐採／犬のフンの後始末するよう回覧し、犬のフンが減った）
- ・コロナ対応避難所マニュアルを作成した。
- ・広報紙発行を1か月おきに行ったことで、住民に注意喚起ができた。

- ・火災予防安全標識、交通安全立て看板を設置したことから、運転者はスピードに気を付けるようになったと感じる。
- ・防犯灯の向きを直し、歩道に明かりが当たるようにした。
- ・花の苗を育てることをして、景観整備の観点で統一感のある状況を創り出せるようになった。民区からの声を区長がいち早くまち協へつなげ、部会への取り組みにつながった。(民区の負担も減ったという効果もある)

#### <課題>

- ・火災予防安全標識、交通安全立て看板など、設置したことを住民に伝わっているか？
- ・立て看板が思ったよりも小さかった。今度作成する時はもっと大きくしたい。
- ・防災ブック、避難所マニュアルは作成しただけでなく、定期的に学んだり、訓練も必要ではないか。実際に使ってみることが大切だ。

#### ○子育て部会

##### <成果>

- ・コロナ前3年間は「キッズ・フェス」「クッキング&交流会」を継続して実施することでイベント中心に活動をしたが、学区の壁を感じずに交流出来た。
- ・コロナ時も工夫してやれる事を考えて活動を継続した。令和2年度は交流イベントを実施せず、上映会を3回実施。また新たに困りごと対応として保護者の朝の見守りで使っている旗が劣化しており、一関ライオンズクラブの協力で新調した。
- ・5年目のR3年度は新たに「体験会」に取り組み、子どもの可能性を広げることが出来た。
- ・子育て部会の役員が終わって子供が中学生になっても、イベントのお手伝いで参加してくれた保護者がいた
- ・体協と共催のシャフルボード大会は毎年恒例になっている。パラリンピックで競技が盛り上がったのもっと大きく開催しても良い。
- ・部会の構成員が1年任期で交代することで、人の入れ替わりで新しい発想は生まれる。

##### <課題>

- ・部会の構成(役員)が1年任期なので交代してしまうため、継続性がなくなる。
- ・子供達が小学校高学年や中学生になると、スポ少・部活中心になってしまい地域の活動に参加してもらえない。
- ・スタッフが部会の構成員だけでは大変(子供がいる親なので家事育児あり)。
- ・部会の予算が手厚い割に、その時だけになっていないか
- ・子供を置いて集まるのが大変なので、SNSでのやり取りになってしまう。
- ・部会会議は子連れOKにしているが、空き部屋の解放など対策が必要である。
- ・全体会など集まる人の枠を拡大しないと偏った視点、考えになってしまう。
- ・子供をみってくれる人がいないと会議に集中できない。
- ・学習支援や食事支援が必要な子供はいないか、周りが把握できているか不安がある。
- ・人づくり(親)が継続していない、仲間づくりが出来ていない
- ・本来の部会の目的をもう一度見直してみる

### 3 関が丘地区の課題

家庭を築く年代の成年層の人口減少が著しいものになっており、同時に高齢化も進んでいます。成年層は地域活動を担う世代でもあり、地域活動の世代移行の困難が容易に予測されることから、特に「地域活動の停滞」が憂慮されるとともに、「高齢化に伴う福祉や防災関連分野での対策」が課題となっています。(第一次計画)

第一次計画策定時の課題については部会事業で取り組んだ事業もありますが、少子高齢化、成年層の参加など継続課題となっており、改めてワークショップ及び住民アンケートを行い課題の整理を行いました。大きく6分野に分けることができるのですが、計画の見直しにあたり新たにまちづくり協議会(地域協働体)の課題が追加になっています。関が丘地区全体のコーディネート組織としては、設立から5年しか経過しておらず組織のあり方も見直しを重ね、地域づくりを進めていなければいけません。

#### <地域コミュニティ>

項目	課題
人材育成	今の 80~90 代が現役のときは、スキルがあったから若い人が地域に関わらなくてもなんとかやっていた。しかし、時代も変わり、当時、地域に関わらなかった人たちが役員となり、実際に地域づくりなどに関わると昔の人はよくやっていたなど実感する
	若い世代の参加をしやすくしたり、若い世代をどのように育てていくか。
子どもの実態が見えない	支援が必要な子どもがいるのではないか? いなければいいのだが、いたら子ども食堂や教育支援などが必要である。→いないのではなく把握ができていないだけ。PTA に入っていない人は、そのような傾向がある。
	就学前の子供が把握できない
働いている世代の把握ができない	コミュニケーションの機会が少ないため、どんな人がいるのか知らない。
参加・参画	行事に出て来なかったり、交流が少ない人がいる。皆で元気に暮らしたい。
	子供達が小学校高学年や中学生になると、スポ少・部活中心になってしまい地域の活動に 参加してもらえない
	青年期の横のつながりを作るものがない

#### <子育て>

項目	課題
学区	学区の境界線があるため一体感をつくりにくい。教育委員会では学区の見直しなどの話が出る。
人材	人づくり(親)が継続していない、仲間づくりが出来ていない
参加	桜町中学校は、中学校 PTA がないので声掛けが出来ない
W ケア	W ケア家庭もあるかもしれないが把握していない

<高齢者>

項目	課題
8050 問題	親としては、50 代の独身の子どもが心配で、50 代などの世代の集まりがないと独身者は、ますます孤立していく。
孤独	高齢者が増えたので、一人ぼっちにしないことが大切だ。
雪かき	高齢者で雪かきがなかなかできず、家にこもりがちになり、うつになった人もいた。その後、施設入所してしまった方も。困ったと言えない人への手助けはどうか？やれない人をどう助けていくか。
ゴミ捨て	ゴミ捨てが大変になってきている。(ゴミの仕分けやゴミステーションまでゴミを持っていくのが大変など)
	民区の境目にある家の人ゴミステーションが遠くなる人もいる。

<生活>

項目	課題
買い物	丸江スーパーがなくなり、買い物が不便になった。 移動販売が来ているが、スーパーでの買い物と比較すると商品の選択肢が限定されるため利用が少なくなっているが、利用が減ると撤退につながってしまう。
	買い物が不便。(業者が来ているが、一部だけに来ている)
	店がない。前々からの課題としてあがっている。
駐車場がない	普段は、敷地内で大丈夫だが、盆正月と息子や娘たちが帰省してきた時に停める場所がない。路駐しても気が引けるし、通報されないか心配でもある
ゴミ	高齢化により分別の認知機能の低下という理由のほかに、単に守らない住民もいる。
	ゴミステーションを増やすことができないか。土地の問題はどうか。補助金を使えばできるのか？
ペット	犬や猫の糞の放置などマナーやルールを守らない。多頭飼育の家がある。

<安心安全>

項目	課題
空き家	空き家の増加。雪かきなどが滞るなどの弊害もある。
住民意識	火災予防安全標識、交通安全立て看板など、設置したことを住民の皆さんに伝わっているか。
	防災ブック、避難所マニュアルは作成しただけでなく、定期的に学んだり、訓練も必要ではないか。

<まちづくり協議会>

項目	課題
人材	まち協事業に関わる人が毎回同じメンバー。どうしたら新しい人が関わるのか？ 関わる前から事業すべてがめんどくさいと感じてしまう。
課題把握	世代ごとに固まってしまうため、全体の課題が見えづらい
組織	各種団体とまち協との関係構築ができていない。何でもまち協に集中するが、そもそも各種団体があり、これまでやってきた底力があるはず。しかし、各種団体も高齢化や予算がないなどでできること、やりたいことができない状態かもしれない。
	部会会議は子連れOKにしているが、空き部屋の解放や全体会など集まる人の枠を拡大しないと子連れでは参加しにくいほか、子供をみってくれる人がいないと会議に集中できない。
	子育て部会に子育て世代しかいないのが課題。孫を見るような存在の人がいると子どもを見てくれるので会議もしやすいし、経験の意見ももらえる。ただし、指図するリーダータイプの方は、人をつぶすからダメ。
	子育て部会、本来の部会の目的をもう一度見直してみる
	部会の構成（役員）が1年任期なので交代してしまうため、継続性がない。新しい発想や意見が入るメリットもある。
	スタッフが部会の構成員だけでは大変（子供がいる親なので家事育児あり）
事業	イベントの対象が絞られているように感じる。子どもから老人までが一緒に楽しめるようなイベントをもっと考えるべき。イベントに行ったら子どものことをお年寄りが見守っている（逆でもOK）ような関係性がつくれたら良い
	まち協でやる事業が真面目すぎる。真面目過ぎると人の輪に入れない。スポーツ交流会と言ってもスポーツが好きなら行くが、苦手意識の人は行かない。1日拘束する訳でもなく、2時間くらいやってみたら楽しいんだけど、その一歩が踏み出せない。

ワークショップの結果から地域課題がまとまっています。これらの解決に向けて、他人事ではなく一人ひとりが取り組むこと（自助）、まちづくり協議会や自治会等住民自治組織（民区・隣近所、NPO）が取り組むこと（共助）、市等に要望すること（公助）に分別し、優先順位をつけて年次的に課題解決に努めることが必要です。

また、自助・共助・公助は全く別のことではありません。それぞれが単独で実施するのではなく、協働して実施してこそ効果的です。

目標の共有化と実施計画の策定と明示・周知が望まれます。

#### 4 アンケート

住民アンケートを実施し、関が丘地区での暮らしやまちづくりについて多様な結果が現れました。主たる課題は、ワークショップと符合します。ただし、気を付けなければならないことは、アンケート回答者全体 394 のうち女性が 62% であり、年代別には 60 代から 80 代が 84.6% を占めます。身近な生活課題が多く、地域で生活をする高齢者かつ女性の意識の割合が高いことになりますが、若い世代の意識をどのようにくみ取るかも隠れた課題です。例えば、買い物、公共交通、学校、病院などの要望は自家用車を有する若い世代は課題として捉えていません。もちろん困っている世代もあることから解決策は検討する必要がありますが、関が丘地区の社会資源を見ても分かるように、決して不便が多い地域ではありません。しかし、少子高齢化の時代と言われるいま、地域の中心課題は「高齢者世帯の生活」「少子化による家族の課題」「主体的なまちづくりへの参加」となるため、課題の捉え方を多様にする必要があります。

まちづくりは誰かがやるものと考えれば他人事になります。公共バスも今はありますが、利用されないバス路線は縮小されます。利用されない金融機関や商店もなくなる懸念があります。

住民一人ひとりが我が事と考え、できることを実践する必要があると考えます。まちづくり協議会に人口増加の事業展開はありえません。住民一人ひとりとまちづくり協議会、民区、隣近所、NPO 等の協働で住みよいまちづくりを行い、結果として流入人口の増加になると考えます。

※アンケート結果は、巻末に記載

#### 5 まとめ

ワークショップとアンケートの結果から、まちづくり協議会と市民センターへの期待は大きいと感じています。これまでの活動の結果や成果が期待を生んでいるものと思われがちですが、この多様で膨大な期待を実行することは困難なことも予想に難しくありません。したがって、今後、まちづくりを継続するためには、まちづくりの中核たる「まちづくり協議会」と「市民センター」の役割と関係性を強化する必要があります。

まちづくり協議会は、自治会等住民自治組織（民区や NPO）と関係の仕組みを構築し育成を目指し、民区は地域包括組織として地域にあった住みやすい地域づくりを進め、NPO は、その組織目的による活動の推進を行うことが望ましく、それぞれの強みを生かし、一体的に成果をあげていきたいものです。新しい仕組みではなく、それぞれの目的の元で取り組みをする原点回帰を第二次計画のテーマとして掲げます。補完性の原則により支えあい、多様な組織・団体と協働し、まちづくりのパートナーを増やしていくことで持続可能な関が丘地区の創造に努めることが、これからの使命と役割であると考えます。

地域課題を明確化し、望ましい地域の姿を示し（目標）解決の手順（年次化）を「まちづくり計画」として掲示、周知し、中長期的に定期点検を繰り返しながら、バトンをつないでいきます。

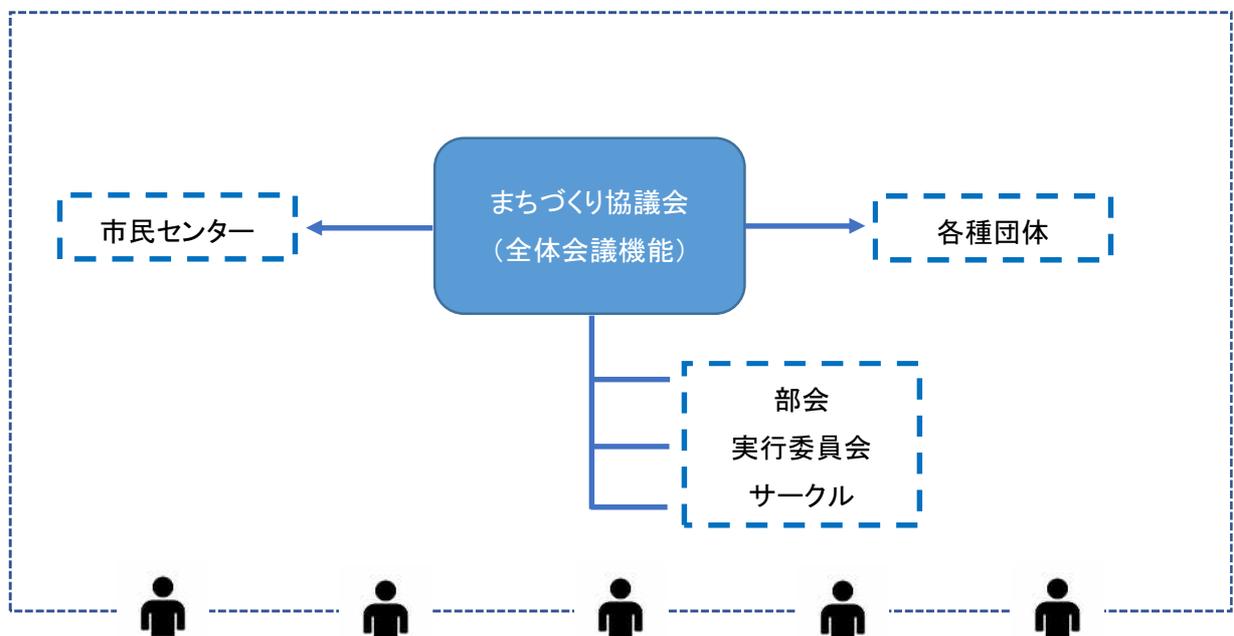
市民センターの役割も再構築が必要です。多様で学習希望にすべて対応できるはずがなく、まちづくり協議会が必要とする学習機会を提供（必要課題の展開）することを中心に、住民からの希望の学習機会（要求課題）の提供は、住民みずからの発想と展開を行うように支援するような市民センターの機能を求めます。（学習グループの組織化と実践）また、市民センターは、まちづくり協議会の事務局であり、選任職員として、まちづくり協議会及び構成団体等を支援することを使命とし、専従職員だからこそすべき責任と業務を担います。

今までのまちづくりは要望することが役割とされているが、これからは一人ひとりがまちづくりの

主体とならなければいけません。誰かに期待するのではなく、一人ひとり（私）が住みよい関が丘になるよう行動することが必要です。私がつくる、住みよい関が丘になるように。

※第二次まちづくり計画の進め方イメージ

- ①関が丘全体のことを考える全体会議（円卓会議）を充実させる
- ②円卓会議の議論により、1年間通して取り組む共通テーマを掲げる
- ③円卓会議の議論により、学びが必要なテーマ(必要課題と要求課題)は、市民センター事業で実施する
- ④専門的な課題については、専門機関と連携しながら取り組み、まちづくり協議会だけで抱えない
- ⑤支え支えあう意識を住民一人ひとりがもち、住民参加型の地域づくりを進める



行動計画～コミュニティ（民区・ご近所）～

	1年以内	3年以内	5年以内
個人で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日ごろからできるだけ顔見知りになり、いざという時に支えあえる関係をつくる。まずは、挨拶から。</li> <li>・いい意味でのおせっかいを広げ、支えあえる関係をつくる。ただし、相手が嫌がるようなことはしない。</li> <li>・民区やまち協の事業に参加するように心がける。</li> <li>・公共バスを利用し、地元商店等の利用も心掛ける。</li> </ul>		
民区で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人に何でも参加してもらうのではなく、必要なことに参加してもらおうようにする。</li> <li>・区長の声がけ（声がけは人材発掘になる）</li> <li>・65歳以上が模範となる背中を見せる（役員中心）</li> <li>・参加しやすい雰囲気づくりを意識する</li> <li>・一人一役ルールを各区共通ルールにする</li> </ul>		
団体で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の団体が再起動できるように事業立案など強化する</li> <li>・やりたい事業があればまち協に提案し、予算をつけてもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループが立ち上がり、おやじの赤ちょうちんや世代別の集まりなど積極的に展開されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループが新規団体として設立されている。</li> </ul>
まち協で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち協と構成団体（民区含む）の円卓会議を設け、共通認識と合意形成を図る。運営体制を常に見直し、みんなで取り組める地域づくりを目指す</li> <li>・関が丘で取り組む共通テーマを考え、民区・各団体ともに同じゴールを目指すようにする</li> <li>・役員や住民向けの研修会を開催し、地域づくりに関する理解を高めていく</li> <li>・1年に一度、関が丘点検を住民参加で実施し、点検を行いながら必要なことを考えるための素材を把握する</li> <li>・ホームページを開設し、SNSを活用した住民向けの情報提供を行う</li> <li>・一人一役ルールをまち協から全民区に普及させる</li> <li>・目にみえないことをやってくれている住民をまち協が表彰する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育を強化する事業を民区、市民センターと取り組む</li> <li>・参加を促すためのコーディネート機能が構築されている</li> <li>・地域内の人の把握をし、それぞれの特技などを活かす人材バンクの準備をする</li> <li>・UIターン者を歓迎する「関が丘にいらっしゃい」を開催する（人の把握・つながり作り）</li> <li>・まち協地域づくり事業を創設し、地域内から提案を受け付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化、人口減少に伴う役割や組織の見直しを検討する</li> <li>・関が丘まち協人材バンクが機能し始めている</li> </ul>
まち協と専門機関で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年層向けに地域の紹介や昔の技術などを習得させる機会をつくる</li> </ul>		
まち協と行政で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの参加は、学校と調整し年〇回は参加することを決めるために、まち協が学校と協議する</li> <li>・AI機能やネットワーク、ICTの活用で困っている人が相談できるきっかけをつくる</li> <li>・地域コミュニティ拡充のため、市民センター職員増員を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTのシステムが構築されている</li> </ul>	
行政に依頼すること			

行動計画～高齢者支援～

	1年以内	3年以内	5年以内
個人で取り組むこと	・隣近所の一人暮らし高齢者や高齢世帯を気にかける。		
民区で取り組むこと	・高齢になると移動が困難になるため、自宅近くの民区でゴミ捨てができるよう、民区同士の話し合いを行う。 ・雪かきを民区毎で協力できる体制づくり ・困っている人がどれくらいいるか把握するため、日頃の近隣の挨拶や声がけを積極的にする ・孤立を防ぐために、回覧での安否確認をする。回覧での安否確認は有効か不安もあるため、サロンの場や民生委員も一緒になって取り組む。	・8050問題など同じ悩みを持つ人の集まりをつくる→検討は1年ほどで行い、実施までは2年をめどに行う。その際、専門職の助けをもらう。	
団体で取り組むこと	・民生委員など各団体活動の情報発信。やっていることだけでなく、その目的や役割など裏側を伝える。	・団体活動に協力する住民が増えている状況を創り出す。	
まち協で取り組むこと	・高齢者向けスマホ講習を行い、まち協が提供する SNS などの情報を受け取れるようにする。 ・敬老会にまちづくり協議会も関わり、地域で高齢者を敬う。	・孤立を防ぐために、世代別で気軽に集まれることを考える。実施は、関係団体をお願いする。 ・雪かき有償ボランティアの仕組みを考える。(単価：500円など)	・雪かき以外の生活(家事)支援など範囲を拡充する。
まち協と専門機関で取り組む		・8050問題は専門職へ相談する。 ・有償ボランティアの仕組みの構築は社会福祉協議会と連携しながら進める。	
まち協と行政で取り組むこと	・高齢化時代に備えるため市の高齢者支援に関する事業について理解する機会をつくる。		
行政に依頼すること		・空いている土地にゴミステーション設置。	・孤立を防ぐためにオンラインを活用する。 ・孤立を防ぐために、空き家を活用して集まれる場所を増やす。

行動計画～子育て支援～

	1年以内	3年以内	5年以内
個人で取り組むこと	・一人で悩みを抱えないようにし、困った時、悩んだ時は、思い切って相談する意識を持つ		
民区で取り組むこと	・日中一人の子どもやWケア家庭を把握する		
団体で取り組むこと	・PTAが中心となり小・中・高生の興味のある事をリサーチする		
まち協で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味を持ってもらえる内容の事業を考える。</li> <li>・民区と部会がコラボするイベントの開催。</li> <li>・子どもを連れての会議参加できる環境づくり。</li> <li>・中学生を巻き込み、中学生も興味をもてるイベントを開催する。</li> <li>・子どもたち自身が取り組める行事を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の先輩方に子どもを見てもらい、会議参加（世代間交流にもなる）</li> <li>・保育コーナーのようなスペースを作る。</li> <li>・親同士が興味をもてることを行う。</li> <li>・友達同士が参加できる内容の事業を考える。</li> </ul>	
まち協と専門機関で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校との連携を強化する。（地域活動に小・中・高生が参加してもらいやすくする等のため）</li> <li>・社会福祉協議会など専門機関と連携し、子育てやWケアの相談対応の仕組みを構築する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、生活支援にも関連して、子どもを見てもらう人を雇う。</li> <li>・子ども食堂を実施し、子供の意見を聴き地域で安心して子どもが過ごせる環境整備をする</li> </ul>	
まち協と行政で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の予算の使い道を行政に相談する。（景品や商品購入について）</li> <li>・見知らぬ人に挨拶をしないように指導する学校とまち協が、どのように住民とコミュニケーションを図るか協議する</li> </ul>		
行政に依頼すること			

行動計画～生活に関すること（買い物・生活支援）～

	1年以内	3年以内	5年以内
個人で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元商店などを積極的に活用する。活用しないと無くなってしまう。</li> <li>・公共交通（バス等）を利用する。利用しないと廃止になってしまう。</li> </ul>		
民区で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なサービスのニーズ把握（買い物だけでなく家事支援など幅広く困りごとを把握）</li> <li>・自分の出したゴミに責任を持つよう袋に番地の記入</li> <li>・ゴミのルール、広報以外でも注意喚起</li> </ul>		
団体で取り組むこと			
まち協で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なサービスのニーズ調査</li> <li>・関が丘で利用できるサービスの一覧を可視化する</li> <li>・ネット注文の勉強会をお年寄り向けにやってみる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物支援をするボランティアの育成（店舗までの運行など）</li> </ul>
まち協と専門機関で取り組む			
まち協と行政で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どれくらい交通手段に困っているのかニーズ調査をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元タクシー会社とまち協貸し切りの契約</li> </ul>	
行政に依頼すること			

行動計画～安全安心～

	1年以内	3年以内	5年以内
個人で取り組むこと			
民区で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場確保のために、近所などの声かけでお互い様の気持ちを促す</li> <li>・地域住民が空き家を把握し、事故・事件等の発生を予防する</li> </ul>		
団体で取り組むこと			
まち協で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家についての勉強会</li> <li>・今年から新しくなった避難所マニュアルの周知</li> <li>・避難所運営の際の市民センターとまち協との連携</li> <li>・避難した際の自宅管理の対応などを検討</li> </ul>		
まち協と専門機関で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットの多頭飼育問題については、保健所など専門機関と連携する</li> </ul>		
まち協と行政で取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家を解体し、駐車場をつくる</li> <li>→入居者がいない市営アパートを取り壊して空地にする</li> </ul>		
行政に依頼すること			

自分のことについて

問1-1	性別	count	rate
1	男	147	37.4%
2	女	246	62.6%
	合計	393	100.0%

問1-2	年代	count	rate
1	10代以下	1	0.2%
2	20代	3	0.7%
3	30代	17	4.2%
4	40代	36	8.8%
5	50代	52	12.7%
6	60代	85	20.8%
7	70代	107	26.2%
8	80代	102	24.9%
9	90代以上	6	1.5%
	合計	409	100.0%

問2	世帯形態	count	rate
1	単身	104	25.9%
2	夫婦のみ	116	28.9%
3	親と子	143	35.6%
4	親と子と孫	25	6.2%
5	その他	14	3.5%
	合計	402	100.0%

問3	居住区	count	rate
1	1区	34	8.0%
2	2区	134	31.7%
3	3区	85	20.1%
4	4区	38	9.0%
5	5区	95	22.5%
6	6区	37	8.7%
	合計	423	100.0%

【提出割合】

問3	居住区	count	rate
1	1区	34	50.0%
2	2区	134	67.7%
3	3区	85	55.9%
4	4区	38	20.3%
5	5区	95	38.5%
6	6区	37	34.9%
	合計	423	44.2%
	R3.3.31全区世帯数	958	

まちづくりを進めるためのこと

問1	関が丘まちづくり協議会を知っているか	count	rate
1	活動（事業）に参加して知っている	76	18.4%
2	活動（事業）には参加しないが、名前は知っている	170	41.2%
3	名前は知っているが、どんな活動（事業）をしているか知らない	107	25.9%
4	名前も活動内容も知らない	60	14.5%
	合計	413	100.0%

問2	地域の絆やコミュニティを守るために取り組むと良いことは？	count	rate
1	町内自治会活動の充実	89	9.8%
2	世代間交流の行事	110	12.1%
3	地域住民の親睦を深める行事	206	22.7%
4	居場所（サロン）の設置	93	10.3%
5	気軽に参加できる剪羽気づくり	272	30.0%
6	自治会活動の見直しや負担軽減	124	13.7%
7	その他	13	1.4%
	合計	907	100.0%

問3	生活環境を守るために取り組むと良いことは？	count	rate
1	清掃活動（草刈り、ごみ拾い）	226	22.4%
2	空き家空き地対策	179	17.8%
3	植栽や花壇づくり	83	8.2%
4	環境バトロール	100	9.9%
5	ペット飼育マナーの普及啓発	108	10.7%
6	野良猫対策	73	7.2%
7	ごみ出しルールの普及啓発	149	14.8%
8	ごみ減量リサイクル	78	7.7%
9	その他	11	1.1%
	合計	1007	100.0%

問4	高齢者が安心して暮らすために取り組むと良いことは？	count	rate
1	高齢者の見守り	194	20.4%
2	介護予防講座の開催	57	6.0%
3	送迎や買い物代行の生活支援	208	21.9%
4	高齢者の交通安全対策	54	5.7%
5	災害時の支援	157	16.5%
6	配食サービス	74	7.8%
7	老人クラブ活動の充実	38	4.0%
8	居場所（サロン）の設置	82	8.6%
9	敬老会の充実	13	1.4%
10	高齢者向け講座やイベント	63	6.6%
11	その他	11	1.2%
	合計	951	100.0%

問5	子どもの健全育成のために取り組む	count	rate
1	子ども向け講座やイベント	93	11.3%
2	地域ぐるみのあいさつ運動	197	24.0%
3	登下校の見守り	167	20.4%
4	放課後や休日の子どもの居場所づくり	164	20.0%
5	学習支援	36	4.4%
6	高齢者との交流事業	77	9.4%
7	子どものボランティア活動の支援	80	9.8%
8	その他	6	0.7%
9	合計	820	100.0%

問6	健康増進のため取り組むと良いことは？	count	rate
1	ウォーキングの普及	166	20.2%
2	軽スポーツ大会の開催	76	9.2%
3	健康やスポーツ教室	76	9.2%
4	健康体操の普及	132	16.1%
5	健康料理教室	80	9.7%
6	健康診断の普及啓発	112	13.6%
7	生活習慣病などの講習会	150	18.2%
8	運動会	23	2.8%
9	その他	7	0.9%
	合計	822	100.0%

問7	災害から地域を守るために取り組むと良いことは？	count	rate
1	防災訓練の実施	167	19.5%
2	防災意識を高める講演会	126	14.7%
3	応急手当などの究明講演会	107	12.5%
4	防災資器材の整備	89	10.4%
5	避難所マップの整備	163	19.0%
6	自主防災組織や避難所運営の体制強化	124	14.5%
7	自主防の体制強化	72	8.4%
8	その他	8	0.9%
	合計	856	100.0%

問8	犯罪や交通事故から地域住民を守るために取り組むと良いことは？	count	rate
1	防犯バトロールの実施	178	17.9%
2	危険箇所を示す安全マップの作製	100	10.1%
3	防犯灯の設置や維持管理	208	20.9%
4	振り込め詐欺など被害防止活動	78	7.8%
5	交通安全講習会	25	2.5%
6	交通安全街頭指導の実施	27	2.7%
7	交通安全看板の実施	22	2.2%
8	反射材など交通安全グッズの配布	63	6.3%
9	違反迷惑駐車防止活動	67	6.7%
10	道路ミラーの点検や整備	106	10.7%
11	通学路の危険箇所への対応	112	11.3%
12	その他	9	0.9%
	合計	995	100.0%

まちづくり活動への興味関心について

問1	まちづくり活動への参加についてどう思われますか？	count	rate
1	参加したい	19	4.8%
2	内容によっては参加したい	256	64.3%
3	できれば参加したくない	56	14.1%
4	参加しない	67	16.8%
	合計	398	100.0%

問2	「参加したい」「内容によっては参加したい」を選んだ方、どのような活動に参加したいですか？	count	rate
1	祭りやイベント活動	86	12.8%
2	環境保全活動	49	7.3%
3	ごみの減量やリサイクル活動	51	7.6%
4	地域の清掃美化活動	77	11.5%
5	生涯学習や文化芸術活動	63	9.4%
6	高齢者の支援活動	59	8.8%
7	障がい者の支援活動	21	3.1%
8	子育て支援活動	34	5.1%
9	健康づくり活動	105	15.6%
10	スポーツやレクリエーション活動	87	12.9%
11	防犯や防災活動	19	2.8%
12	消防団活動	4	0.6%
13	交通安全	15	2.2%
14	その他	2	0.3%
	合計	672	100.0%

問3	「できれば参加したくない」「参加しない」を選んだ方、どのような理由からですか？	count	rate
1	参加する時間がない	40	26.1%
2	活動に興味がない	7	4.6%
3	負担が大きそう	13	8.5%
4	参加したい活動がない	7	4.6%
5	一度参加したらやめられなさそう	14	9.2%
6	高齢で体力的に難しい	64	41.8%
7	その他	8	5.2%
	合計	153	100.0%

問4	まちづくり協議会に取り組んでほしい行事事業は何ですか？	count	rate
1	夏まつり	85	9.7%
2	運動会	32	3.7%
3	文化祭	66	7.5%
4	生涯学習講座	63	7.2%
5	映画会	52	5.9%
6	講演会	63	7.2%
7	料理教室	44	5.0%
8	健康体操教室	65	7.4%
9	物販販売	42	4.8%
10	健康づくりイベント	61	7.0%
11	子ども向けの講座や教室	48	5.5%
12	サロン	20	2.3%
13	絵本の読み聞かせ	13	1.5%
14	子育てサークル	19	2.2%
15	多世代交流事業	59	6.7%
16	環境やエコ活動	55	6.3%
17	資源開発	9	1.0%
18	男性又は女性向けの講座	8	0.9%
19	カフェや喫茶コーナー	62	7.1%
20	その他	10	1.1%
	合計	876	100.0%

問5	まちづくり協議会に何を期待しますか？	count	rate
1	地域課題の解決や取組み	179	29.9%
2	まちづくり活動のリーダーシップ	52	8.7%
3	イベント等による賑わいづくり	94	15.7%
4	地域の連帯感をつくること	145	24.2%
5	広報誌など地域の情報発信	62	10.4%
6	地域の意見のとりまとめ	57	9.5%
7	その他	10	1.7%
	合計	599	100.0%

地域について

問1	関が丘地区は暮らしやすいですか？	count
1	暮らしやすい	73
2	どちらかといえば暮らしやすい	213
3	どちらかといえば暮らしにくい	80
4	暮らしにくい	14
	合計	380

問2	関が丘地区のどんなところが暮らしやすいですか？	count
1	買い物など日常生活が便利	87
2	公共交通が便利	10
3	働く場所まで近い	37
4	病院や福祉施設が近い	58
5	自然環境が良い	121
6	子育て環境が良い	17
7	治安が良い	92
8	防災面が安全	17
9	災害が少ない	155
10	地域のしきたりや風習がない	73
11	近所付き合いがしやすい	60
12	住み慣れた地である	116
13	地域の行事や役など負担が少ない	33
14	その他	8
	合計	884

問3	関が丘地区はどんなところが暮らしにくいですか？	count
1	買い物など日常生活が不便	174
2	公共交通が不便	210
3	働く場所まで遠い	14
4	病院や福祉施設が遠い	96
5	自然環境が悪い	5
6	子育て環境が悪い	6
7	治安が悪い	2
8	防災面が不安	40
9	災害の恐れがある	12
10	地域のしきたりや風習が残っている	14
11	近所付き合いがしづらい	47
12	住み慣れない地である	12
13	地域の行事や役など負担が多い	32
14	その他	30
	合計	694

問4	歩いて行ける範囲にあったら良いと思う施設機能は何ですか？	count
1	医療機関	172
2	福祉施設（デイサービスなど）	81
3	居場所（サロン）	43
4	子育て施設	15
5	高齢者向け集合住宅	22
6	農産物直売所（朝市）	146
7	駐車場	32
8	商業施設（スーパー・コンビニ）	214
9	フィットネスクラブ	28
10	その他	14
	合計	767